

# スポーツ文化研究会「サロン2002」会員の皆さまへ

## －理事長からのメッセージ－

スポーツ文化研究会 サロン2002  
理事長 中塚義実

5月31日の総会で、「サロン2002の方向性」についての決議を行うことになっています。

経過についてはすでにさまざまな形でお伝えしているとおりでありますが、準備委員会報告の補足のかたちで、理事長からのメッセージをお届けします。

これまでのサロン2002を踏まえながら、これからどうなっていくのかを皆さまにお伝えする内容です。長文ですがご一読ください。

### 1. サロン2002とは－設立宣言より

サロン2002設立宣言は、2000年度に会員制を導入する際に規約とともに定められたものです。サロン2002の名称で活動を開始したのは1997年度なので、前文は「あらためてサロン2002の設立を宣言する」となっています。

これは歴史的な文書なので、内容に手を加えることはできません。しかし折に触れ見直し、バージョンアップしたものを提示することは必要でしょう。

スポーツ文化研究会サロン2002の歴史を踏まえ、特定非営利活動法人サロン2002（NPOサロン）が誕生するにあたり、設立宣言をみながらサロン2002を改めてみていこうと思います。

|   |           |
|---|-----------|
| 我々は、以下に「サロン2002の“歴史”」、「サロン2002の“志”」及び「サロン2002の“会員”」を述べることにより、ここにあらためてサロン2002の設立を宣言する。 | 2000年4月1日 |
|---|-----------|

#### 1) “歴史”を中心に

|  |
|--|
| サロン2002は、社会学、心理学等の専門的立場からサッカーの分析・研究・報告に従事していた「社心グループ」(財団法人日本サッカー協会科学研究委員会の研究グループの一つで、1980年代後半からこの名称で活動)を前身とし、1997年からは研究者という枠にとらわれない、幅広い人材によって構成されるゆるやかな情報交流グループ「サロン2002」として活動を行ってきた。 |
|--|

(設立趣旨書より引用) サッカー・スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”に掲げ、スポーツ文化研究会(任意団体)サロン2002が活動を開始したのは1997年度のことでした。前身となる(財)日本サッカー協会科学研究委員会(当時)の「社・心グループ(社会学と心理学の研究者グループ)」の勉強会は1980年代後半から定期的に開かれていましたが、1990年前後から日本サッカーを取り巻く環境が激変し、多様な人材がこの研究会に参加するようになったことがサロン2002発足の背景です。この名称の由来は2002年FIFAワールドカップにあります。同大会の成功はもちろんのこと、大会後の“ゆたかなくらしづくり”こそが私たちの関心事でした。インターネットの爆発的な普及もあり、サロン2002の“志”の輪は全国に広がり、いまでは180人ほどの異業種ネットワークが確立し、“志”の実現に向けてさまざまな活動を展開してきたのが任意団体サロン2002です(引用ここまで)。

前身を含めると20年以上もの間、この組織と活動が絶えることなく続いてきたことを誇りに思いません。そしていま、大きな分岐点にあることはご存じのとおりです。

## 2) “志” を中心に

サロン2002は、サッカー・スポーツを通して21世紀の“ゆたかなくらしづくり”を目指すことを“志”とする。年齢、性別、国籍、職業、専門分野、生活地域などを超えた幅広いネットワークを築き上げ、全国各地にサロン2002の“志”の輪を広げ、大きなムーブメントとなることを目指す。

サロン2002の“志”を実現する上で、2002年FIFAワールドカップ韓国／日本大会は大きな節目であると認識する。国内外の様々な人々と協力しながら、この世界的なイベントの“成功”に貢献するとともに、同大会後の“ゆたかなくらしづくり”のためにできることを考え、行動する。

サッカー関係者が中心となって立ち上げたネットワークなので、“志”には「サッカー・スポーツを通しての～」と記されています。これからもおそらくサッカー関係者のつながりがベースとなっていくでしょうし、取り上げられる話題もサッカーが多くなることが予想されます。関わる人口が圧倒的に多く、底辺から頂点まで、国内だけでなく国外にも幅広く展開され、先進事例が多いサッカーが“ゆたかなくらし”のヒントを多く与えてくれることは容易に想像できます。

NPOの設立趣旨書や定款からはあえて「サッカー」の文字を外し、「スポーツを通しての～」といたしました。月例会ではすでにラグビーをはじめ、サッカー以外のスポーツも取り上げています。今後はさまざまなスポーツを取り上げ、サッカー人以外の方々とも広くつながっていきたくと考えます。

あえて「スポーツ」は残しました。アート系の方々とのつながりは重視しますし、衣・食・住や医療・福祉・環境といった“日常”にかかわる問題や、災害復興や途上国支援といった“非日常といえる問題”も取り上げます。“ゆたかなくらし”に直結しなくても、それを考える手がかりとなるような話題や人となつがっていきますが、柱としてのスポーツは残しておきたいと考えるからです。

設立宣言には、2002年FIFAワールドカップ韓国／日本大会のことが書かれています。設立宣言が書かれた2000年当時の大きなテーマでした。ワールドカップ本大会よりもむしろ、大会後の“ゆたかなくらし”こそが我々の関心でした。

いまだと2019年のラグビーワールドカップ、そして2020年の東京オリンピックが書かれるでしょうが、いずれも、大会後の“ゆたかなくらし”こそが我々の最大の関心事であることは変わりません。

## 3) “会員” を中心に

サロン2002は、前項の“志”を同じくする人たちのゆるやかなネットワークである。サロン2002の“志”に賛同した個人であれば、誰でも“会員”となることができる。ただし会員は、サロン2002からの“Take”を求めるだけでなく、サロン2002に対して、また社会に対して何が“Give”できるかを常に考え、“Give and Take”の姿勢でいるということが前提である。

サロン2002は、会員に対して短期的な成果は求めない。長い目で見た“Give and Take”の関係が成り立っていればよい。即座のアウトプットが困難であっても、いずれ何らかの形で“Give”を考えている人なら“会員”となることができる。

サロン2002の会員について語るとき、“志”と“Give and Take”は常にキーワードでした。ホームページには次のような記述もあります（こちらの方が先に書かれたものです）。

サッカー・スポーツを通して21世紀の“ゆたかなくらしづくり”を目指すという“志”に賛同した個人であれば誰でも、一定の手続きを経て“会員”となることができます。

但し、会員は“Take”を求めるだけでなく、社会に対して、またサロン2002に対して何が“Give”できるかを常に考え、“Give and Take”の姿勢で入会して下さい。短期的な成果は求めません。長い目で見た“Give and Take”の関係が成り立っていれば良いのです。即座のアウトプットが困難であっても、いずれ何らかの形で“Give”を考えている方(学生含む)なら“会員”となることができます。

入会はいつでも受け付けますが、年度単位で更新となります。

「中塚義実とゆかいな仲間たち」との表現がML等で流れたことがありました。現状を言い当てた絶妙な表現だとは思いますが、それはあくまでも結果です。設立宣言からおわかりのように、サロン

2002は個人的なつながりで始まったものではありません。結果的に「ゆかいな仲間たち」となっているのはうれしい限りですが、単にゆかいなだけのサークルではありません。この表現が独り歩きする中で、勘違いが増幅していったように思います。サロン2002は“志”に賛同し、“Give and Take”の姿勢でよいという仲間（同志）のネットワークなのです。

これからも、「サロン2002」の歴史と志を継承するスポーツ文化ネットワークサロン2002（スポ網サロン）と特定非営利活動法人サロン2002（NPOサロン）は、ぶれることなく続きます。

## 2. なぜNPOを立ち上げるのか？

### 1) 従来の活動を続けていくために事務局機能を強化したい！

（設立趣旨書より引用）日本において、文化としてのスポーツを定着させるにはどうすればよいのでしょうか。そもそも文化としてのスポーツ、スポーツを通しての“ゆたかな暮らし”とはどのようなものなのでしょう。

私たちはこのような問題意識のもとで、1997年度から、主に東京都内で月例会を中心に活動を展開して参りました。すでに200回を超える月例会のテーマは、ユースサッカーリーグやU-18フットサル大会の創設、FIFAワールドカップへの市民参画、サッカーの歴史や海外のスポーツ環境の調査・研究、スポーツとアートの融合、ラグビーの普及などさまざまです。また、月例会の拡大版として年1回開催される公開シンポジウムは、より多くの方々と交流する機会となっており、月例会を東京都以外の地域で開き、全国各地の方々とネットワークを築き上げてきました。

これらの事業は、これまですべてボランティアベースで進めてきました。「ゆるやかなネットワーク」ではありますが、このつながりを維持し、育くむための事務局機能が脆弱であることが悩みの種でした。この部分の強化は不可欠です。任意団体では限界があります。（引用ここまで）

「事務局機能の脆弱さは法人化とは別問題ではないか」というご指摘はごもっともです。会費を集めて運営している組織なら、法人格を持つのが持つまいが、しっかりと運営するのは当然のことです。

これまでのスポ研サロンには、中心も周縁もありませんでした。みなが等しく投資し、発言権と決定権を持ち、数字の論理（多数決）に依存することなく、真の意味で“民主的”に運営されてきたと信じています。

組織が大きくなってきたころから、理事会を組織し、実務を担当する運営委員を置くようになり、その人たちを中心に運営していくようになりました。中心も周縁もないと言いながら、情報の“時差”が生まれ、それが“温度差”につながっていたのは否定できない事実です。

運営の大変さは、結果的に周縁に位置づけられた方々にはあまり伝わらなかったのかもしれませんが。例えば月例会報告一つとっても、報告書作成者が全部まとめているわけではありません。テープ起こしは報告書作成者ですが、それを参加者で回覧してチェックしたものを最終的に編集しているのは理事長です。この他にも「中塚個人商店」の限界が来ていたのは事実です。

この組織を盤石なものにしていこうというのが法人化のねらいの一つです。サロン2002の後継であるスポ網サロンのネットワークの維持・拡充は、NPOサロンの主たる事業として位置付けられます。そこでも誰かが担うことになるわけですが、無償ボランティアでなく、ある程度の運営資金を事務局に投資しながらやっていこうというのがこれからのすがたです。

また、これまでサロン2002が担っていた月例会や公開シンポジウム、出張サロンなど、目に見える形としての「事業」は、NPOサロンの責任で運営します。スポ網サロンはネットワークとして維持され、各事業はNPOサロンが担い手となるということです。もちろん、スポ網サロンの会員は従来どおり、情報を送受信する当事者ですし、NPOサロン会員ではないけどサポートしたい方は大歓迎です。というより、月例会や公開シンポジウムなど、従来行っていた事業は「サロン2002」の仲間（スポ網もNPOも含む）で総力を挙げて取り組む姿勢が変わることはありません。

## 2) “ゆたかなくらしづくり”に貢献できる事業に取り組みたい

気が付けば全国（海外も）に180人もの同志がつながっているネットワークは素晴らしいものです。スポ研サロンの「ゆるやかなネットワーク」に集まる各分野の熱き人々の力を集めれば、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”にもっと貢献できるのではないかと考えました。ただ単に集まってワイワイやるだけの組織から、何らかの具体的なアクションに取り組む組織へ脱皮しようと考えたのが、もう一つのねらいです。

すでに取り組んでいることもあります。ユースサッカーリーグやU-18フットサル大会などはサロン2002会員の発案とつながりではじまり、手弁当で展開していたのが徐々に広がり、軌道に乗った事業と言えるでしょう。前者についてはJFA（または各都道府県FA）の指導のもと、全国各地で展開されていますし、後者についてもこれからそうなるでしょう。

立ち上げ、軌道に乗せるところまでは勢いが必要です。軌道に乗せたら、それを維持していくための運営組織が必要です。高校生の“ゆたかなくらし”に貢献するこれらの事業に、NPOサロンとしてお手伝いできないだろうかと考えます。

また、サロン会員が取り組むスキンプロジェクトも、“ゆたかなくらし”につながる意欲的な事業ですが、個人で取り組んでいることもあってなかなか広がっていきません。NPOサロンの事業として支援していくことができないだろうか考えます。

2020年の東京オリンピックをめぐるのは、メダル争いにつながる強化策の話や、インフラ整備にともなう財政の話、大会後の施設利用の話などがメディアで取り上げられています。私たちが関心を持つのは、大会後の“ゆたかなくらし”であり、勝ち負けだけではない、真のスポーツの価値を問うオリンピック教育です。この分野にも、他の組織と連携しながら関わっていきたいと考えます。

途上国支援や被災地支援に取り組む会員もいます。何らかの組織の一員として取り組んでいるようですが、NPOサロンが関わることで、スポーツという切り口からできるのではないかと考えます。

このほかにも、さまざまな事業の種が、NPOサロンの周囲にあります。それは、“ゆたかなくらし”につながる社会問題の解決策だと言えるでしょう。

NPOサロンの会員ではないけれど、これらの事業にかかわっていきたいと考えるスポ網サロン会員は大歓迎です。もちろん「この事業には関わりたくない」とか、「いまは関わるができない」などさまざまでしょう。できる範囲で関わってください。

## 3) 社会の一員として

サッカー関係の会合や学会の集まりなど、いろんな場面で「あなたもサロンですか。私もサロンです」というつながりが生まれることがあります。サロン2002はこれまで、あまり表に出ないで水面下に潜伏していたネットワークでした。これからもスポ網サロンはそれでいいと思います。

と同時に、NPOサロンは、自分たちの掲げる“志”を積極的に対外的に発信し、目の前に転がる課題だけでなく、広い視野を持って社会課題に向き合い、解決していく努力をしていく必要があると考えます。

市民社会の構成員として、スポーツを通じた“ゆたかなくらし”に貢献するようさまざまな事業に取り組み、そのことを社会から評価していただくことが、スポーツの地位向上にもつながるのだと考えます。

サロン2002のすがたが、一般社会から見えるように。

社会に対してサロン2002がよりはたらきかけることができるように。

このような経緯、考え方で、私たちは特定非営利活動法人として再生することを決意しました。

「ゆるやかなネットワーク」を広げ、深めていくとともに、積極的に「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」に貢献する事業に取り組んで参りたいと考えています。

### 3. サロン2002会員の皆さまへ

5月31日のサロン2002総会は、前半で、これまでのサロン2002の通常総会を行い、後半にNPOサロンの設立総会を行います。

サロン2002会員が関係するのは前半部分ですが、後半についても会員（社員）となる意思をお持ちの方は参加していただくことになります。またスポ網サロンの会員の方も、できればオブザーバーとして参加していただき、NPOサロンがどういうものになるのかを知っていただければと思います。

その上で、6月1日より、2014年度の会員登録をはじめます。

その際、スポ網サロンメンバーとしてネットワークの一員であることを望むか、またはNPOサロン会員となって運営に携わることを望むか、あるいは退会されるかは、ご自分で選択してください。

すでにNPOサロン会員を選択しようと考えておられる方は、設立時の役員選考など、まだ残っている議論に、設立時の会員としてぜひ加わってほしいと思います。どうぞお早めにお申し出ください。いま13名です。

以上